

400年の歴史を土壌にえがく 鮮やかな都市戦略

# 金沢21世紀美術館

古都金沢に金沢21世紀美術館が開館して1年と4か月あまり、約190万人という当初の予想をはるかに上回る入館者を迎え一躍話題を集めた。その理由は「新しい文化の創造と新たな賑わいの創出」というスローガンにある。計画段階から「まちの賑わいづくり」が意図された美術館はほかにはないのではないか。



兼六園の緑を背後に ガラスで覆われた直径113m 正円形の金沢21世紀美術館

## 【 まちに開かれた公園のような美術館 】

金沢の中心部、観光客で賑わう兼六園と市役所、繁華街香林坊を結ぶ軸線上、元金沢大学附属小中学校跡地に、芝生に囲まれ、全面をガラスにおおわれた正円形の斬新な美術館がある。朝は光を浴びながら、夜は美しい照明に影を落としながら人が吸い込まれていく。週末ともなれば芝生に子どもが群れ、館内はあらゆる年齢層の人々が憩いのひとときを過ごす。まさにコンセプト「まちに開かれた公園のような美術館」である。

直径113m、面積1万7千㎡、表裏のない建物には4か所の出入口があり、外側は無料ゾーンで、交流機能のある市民ギャラリー、アートライブラリー、ミュージアムショップ、そしてカフェレストランなどが配され、内側はトップライトと光庭の明るい有料展示ゾーンで、さまざまな現代美術の企画展が開かれている。夜10時まで自由に通行できる無料ゾーンの入館者の約



金沢の友禅模様から生まれた華やかな壁面 作：マイケル・リン



中央部の光庭を横切るガラスの通路 植物の壁は作品 作：パトリック・ブラン



ガラスばりのカフェレストラン 食事だけが目的の来訪者も多い



ラッパ型の設備用配管を使った参加型の作品 作：フローリアン・クラール

## 【 子どものいる美術館をめざして 】

開館後の企画もユニークで、子どもを引き付ける「ミュージアム・クルーズ」は、半年間にわたって市内の全小中学生、教諭

といえるだろう。これは養豊館長の、アメリカやカナダの美術館での26年間に及ぶ経験から生まれた「子どものいる美術館」をめざすビジョンが生み出した企画である。また、現代美術は難解という先入観を打破するため、作品は1980年代以降に絞り込み、入りやすくわかりやすい展示、触ったり体感したりという参加型の展示となっている。また館内案内のレクチャーも随時開かれ、シアター21では例えば「ベール・ドルファール」という希少なピアノのコンサートや懐かしい映画の上映があったりして、美術以外の芸術領域も組み込んで集客効果をあげている。

昨年ゴールデンウィーク中の入館者は金沢市民が約20%、金沢市以外の石川県内からの来館者が約15%、そして全国からが約65%となっていて、地域の美術館ながら全国的に注目を集めていることがわかる。開館以来1年間の経済波及効果は328億と大きなプラス効果を示している、地域の経済界も評価を惜しまない。金沢の伝統工芸品の店の多い広坂では、美術館帰りの来店



美術館そばの広坂通り 金沢の伝統工芸 漆器の専門店



保全された武家屋敷街 長町 国重要伝統的建造物群保存地区選定



こまちなみ保存条例で昔ながらの風情を伝える 里見町界限



ひがし茶屋街 国重要伝統的建造物群保存地区選定

## 【 先駆的なまちづくり戦略の展開 】

金沢は周知のように、1583年（天正11）前田利家の金沢城入城以来、加賀百万

石の城下町として整えられ、400有余年に及ぶ歴史を綴っている。特徴的なのは江戸幕府に対して叛意のないことを示すために、鋭意文化の育成に力を注いだことである。当時最高の学者文人を招聘し、万巻の書を集めた尊経閣文庫を開き天下の書府といわれ、百工比喩といわれる全国から卓越した工芸品の蒐集、また能楽における加賀宝生流、時絵、九谷焼、友禅染など、創りだした文化は枚挙にいとまがない。それらは本質的に武家の文化ではあるものの、都市としての豊かな財力、深い土壌は明治期以降にあっても比類がなく、この金沢21世紀美術館もそういう土壌があったればこそ花開いたといえるだろう。

戦後、非戦災都市であった金沢は、全国に先駆けて1968年（昭43）伝統環境保存条例を制定し、武家屋敷の長町やひがし茶屋街など市内の4地区を伝統的環境保存区域として保全した。1979年（昭54）からは延べ193kmにわたる用水のうち、辰巳、大野庄、鞍月用水などを復元、都市に清冽な流れを取り戻している。近年には

「こまちなみ保存条例」を施行、いつそうキメ細かく金沢らしいまちなみの保全に力を注ぎ出した。さらに加えて2005年（平17）夜間景観の形成に関する条例が施行されたが、単に美観だけでなく、環境への配慮と安心の確保といった視点も加えられているのが特徴であろう。また歴史的な花街である主計町の旧町名復活が全国から拍手で迎えられたことも記憶に新しい。

金沢の都市づくり戦略はますます鮮やかさを加えつつある。それは「古くても新しい」という、永遠の古都がもつべきまちづくり哲学の結晶にほかならない。

暮れなずむ空と金沢のまちに舞い降りたUFOのような 金沢21世紀美術館

